

vol.7

2025年11月

Arai Darumaya

だるま屋通信

— 秋号 —

今号のtopics

Topics
1

荒井だるま屋は今年で創業160年を迎えました！

Topics
2

懐かしい写真のご紹介♪

Topics
3

午の干支だるま・張り子(親子)と、160周年記念商品

だるま屋通信はダウンロードして紙でご覧いただけます。
最適サイズはA4です。スマホなどでご覧いただく場合は、
ピンチアウト(画面を指2本で拡大)していただけます。

荒井だるま屋は 今年で創業160年を 迎えました！

いつの時代も、お客様に暖かく見守っていただき、ご愛顧いただけたお陰で、このように長く続けることが出来ました。ここでは、現在の代表（4代目・荒井星冠）が代々伝え聞いてきたことを記事にさせていただきました。

荒井だるま屋は今年で創業160周年を迎えました。創立は江戸時代末期・慶応元年（1865年）になります。現在は、一つ一つ手作りしただるまを販売しておりますが、初代（荒井ユウジロウ）は、群馬県の高崎からだるまを仕入れて販売だけをしていました。天秤棒を担いで行商のように一軒一軒お客様のお宅を回っての手売りです。そのような仕入れ・販売の流れを変えたのが、2代目（荒井繁三）です。2代目が家業を手伝い始めた頃、仕入れるだけではなく、だるまを手作りして販売したいと思いはじめました。初めてのことでただで決して簡単なことではありませんでしたが、二人が一丸となり努力し、だるまを手作りするという荒井だるま屋の基盤ができました。初代は社交的で販売上手、2代目は器用で物づくりを好む探求心のある職人肌。二人の長所が上手に組み合わせられて、良いものを作り、多くのかたに買っていただく販売力もありました。そのような時代から始まり、今では神奈川県で2店舗しかない老舗のだるま屋になっています。



木型を使ってだるまのボディを作ります。

荒井だるま屋の一番のピンチは、第二次世界大戦です。平塚に火薬庫があったため、頻繁に空襲に襲われました。命の次に大切なだるまの木型は5,000体以上に及びます。1代目と2代目の手製の木型は再び作ることはできません。空襲の度に、庭の井戸に投げ入れ、防空壕の中に埋め、なんとか守り抜くことができました。日本中が大変な中、ただただ命があったことだけでも有りがたいと思えます。

なんとも大きい金のだるまがお出迎えますよ♪
手を合してくださるかたもお見受けしますよ。



現在の荒井だるま屋の店舗の写真です。店舗を構えたのは今から21年前の2004年になります。それまでは、店舗はもちろん、オンラインストアもありませんでした。だるま市や、イベント出店が主な販売ルートで、近くに住むお客様にしか販売することができませんでした。



3代目（荒井昇）には頼りになる三人の姉たちがいました。この頃には、荒井さんのだるまがいい顔をしている、ご利益があると、選んで購入してくださるお客様が増えていて、たくさんの需要に対して、頑張っても頑張っても製作が追い付きません。三姉妹はそれぞれ家庭があった中で、荒井だるま屋に尽力してくれました。売り切れになることなく、お客様の手元にだるまをお届けすることができたのは三姉妹のおかげです。

2番目のピンチは、だるまの買い控えでしょうか。明治天皇の没年には1年でだるまが1体も売れない事態がおきました。その頃は、赤いだるましかありませんでしたので、大打撃を受けました。その後も、大正天皇の没年には販売数が半減し、昭和天皇の没年は1/3ほどに減っています。昔は、一般家庭のお客様も身内にご不幸があった年は、赤いだるまを買い控えることもありました。ご不幸のあった年は、おめでたいことを止めてしまう風習がありました。

懐かしい写真のご紹介♪

残念ながら、1代目・2代目が働いている場面や、その当時のだるま屋の写真は探しても見つかりませんでした。80歳を越えても現役を続けていた3代目の時代からご覧ください。

だるま作り



上の写真は、現在も現役の職人さんです。40年以上荒井だるま屋で活躍してくれている必要不可欠な大ベテランさんです。



写真をスキャンして使用しています。画像が粗いですが、楽しく見ていただければ幸いです。

40年程前の写真になります。前ページの記事で取り上げた『守り抜いてきた大事な木型』が映っていますね。課外授業でだるま屋に来てくれた小学生に、3代目と4代目がだるま作りをレクチャーしています。現在も変わらず、小学生たちが職業体験で荒井だるま屋を訪れてくれていますよ。



だるま市と酉の市

横須賀の酉の市で仲良く販売している3代目夫婦です。3代目女将は、『お多福のお母さん』と呼ばれることもあり、いつも笑顔で福顔の看板娘でした。



20年程前(上)と、45年程前の(左)のだるま市の写真です。当時は、家族と親戚だけでは販売が追いつかず、友人や東海大学の学生などにお手伝いをしてもらっていました。雪の降るだるま市も経験しました。現在はだるま市が縮小しており、ライバル店もなく、寂しいですが昔のように賑わいません。

「庭」兼「作業場」

こちらは、荒井だるま屋の庭になります。残っている写真の中で、一番古いものになると思います。だるまは1つの工程ごとに乾かす必要があります。その為には広い場所が必要です。この頃は特に、完成までの時間が天候に大きく左右されていました。現在は隣家や大きな建物が建っていますが、平塚駅から徒歩30分程の立地でも当時は列車からだるまを赤く塗るところが見えていて、列車の通過音がガタンゴトンと聞こえていました。



午の干支 だるま・ 張り子(親子)と、 160周年記念商品

来年は60年に一度の丙午(ひのえうま)です。強いパワーと馬力を持って、駆け上がる一年になりますように♪

ご利益がいっぱい♪

午の干支 だるま・張り子

ウマは『馬力』と言われるようにその力強さの恩恵から、「豊作」「健康運」などの意味があります。また「物事がうまくいく」「幸運が駆け込んでくる」という縁起良い表現をします。ウマにまつわる言葉やことわざは他にも多く、「運氣上昇」「病平癒」「成功運」など大変幸運な意味を持つ干支になります。

Check!!
こだわりの紐♪



現在、複数のメディアで紹介されている午の干支だるまへ、かわいい!と、たくさんの反響をいただけており、大変嬉しく思っています。今回は、午の干支だるまと張り子の親子にお揃いの紐飾りを施しています。干支だるまへ紐飾りを付けるのは初めてです。華やかな年になるよう、いいご縁が強く結ばれるようお願いを込め、そして、金の鬘をなびかせ、駆け上がるようにデザインをしました。来年の午年が、あきらめない!きっとウマくいく一年になりますよう、幸運を願っています。

左馬



だるま乗せ張り子

160周年記念で何か特別なものを作りたいとの思いで、左馬(ひだりうま)と、だるま乗せ張り子を数量限定ではありますが製作しました。「左馬」は福を招き商売繁盛など、たくさんの意味を持つ縁起物です。だるま乗せ張り子は、張り子の素朴な良さに加えて、乗っているだるまには目入れをし、願いを込めていただくことができます。興味のあるかたは、是非ともチェックしてみてくださいね。どちらの商品も現時点で半数ほどは販売済みになりますので、売り切れ御免を何卒ご了承のほどお願いします。



『干支だるま』をご購入されるお客様のほとんどは、かわいい顔の、目と目が合った子をお選びになりますが、背中の方除けをじっくりと見て、お選びいただくお客様も少なくありません。書家でもある4代目が書く八方除けは、強いパワーがあると言っていただけます。今やベテラン書家の4代目のルーツは、5歳の頃に祖父(2代目)に筆を教わり、毎日遊び道具のように筆を持つのが当たり前の環境を与えてもらえたところから始まっています。

かなり遅くなってしまいましたが、秋号をなんとか掲載できました。ページ数も少なく大変申し訳ありませんが、荒井だるま屋の160年の歴史を少しでもお伝えできれば幸いです。気を引き締めて、200年、300年と続くように努力してまいりますので、今後とも何卒よろしくお申し込み申し上げます!今シーズン予定している屋外のイベント(酉の市・羽子板市・年末だるま市・川崎大師初売り等)は例年通り出店させていただきます。皆さまにお会いできるのを楽しみにしておりますね!